

令和 5（2023）年度 第 4 回栃木県無人自動運転移動サービス推進協議会 議事概要

1. 開催日時 令和 6 年 3 月 18 日（月）13：30～14：30

2. 会議形式 対面・オンライン併用（ライトキューブ宇都宮 4 階小会議室）

3. 出席者 委員 9 人、オブザーバー 3 人（うち代理 2 人）、実験実施関係者（5 人）

4. 議事

(1) 下野市における実証実験の実施結果について

資料 1 に基づき、下野市における実証実験の実施結果について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 1 か月以上にわたる実証実験であり、雪もあったが無事に実験を終えることができた。下野市を含め、地元関係者と密な連携ができたことが一番の成果だと考えている。今回の実証実験は、レベル 2 での運行であったが、1 か月間運行してレベル 4 を実現するために非常に恵まれた走行環境であったと認識している。実施体制に地元関係者が参画し、密な関係性を構築できていることが将来的にも重要と考えており、その旨は先日の実務者協議会でもお伝えした。いち早く実装したいと考えている。【委員】
- ・ 関係者の協力により無事に運行できた。運行を重ねるうちに徐々にドライバーが自動運転のシステムに慣れ、よりスムーズな運行をすることができた。ドライバー、運行管理者、車両提供事業者と議論し調整できたことが非常に有意義であったと考えている。引き続き、自動運転バスの導入に向けて努力してまいりたい。【関東自動車】
- ・ 下野市における自動運転バスの実証実験が事故なく無事に終了できたことに感謝申し上げたい。実際の運行を行った関東自動車の努力の結果、苦情等もなく無事に実施できた。自治医大線は、地元住民はほとんど使用せずに、市外から来た人が乗車することが多く、市内の方にどれだけ興味を持っていただけるのか、事故なくスムーズに運行できるのかという点について懸念していた。結果としては、事前の PR や路上の安全看板、バスのラッピングデザインによって、多くの地元市民に対しても PR できたという認識である。具体の課題については、引き続き、関東自動車と協力しながら下野市として公共交通の課題解決に資する検討を行いたい。栃木県の支援の下で、実務者協議会の運営も引き続きお願いしたい。【下野市】
 - ⇒ 車いす使用者は 1 日平均して何人くらいいるのか。無人自動運転となると車いす使用者の対応等に不安を感じる。自動運転バスに限らず、通常の自治医大線の運行において、どの程度の利用者がいるか。【委員】
 - ⇒ 実験期間中においても車いすの利用者はほとんどおらず、手押し車の方々が何名かいた程度であった。【関東自動車】

- ⇒ 高齢者の増加に伴い、健常者と移動制約者が共生する社会となっている。その状況下でバスの乗車を断ることは望ましくない。車いす対応ができる自動運転バスが運行されれば、保安要員の準備等、人の手が不要な部分もあるかと思っている。そのような課題が解決すれば自動運転バスが運行する場所としては問題ないと考えている。また、交差点での手動介入は車両の技術的問題であり、引き続き技術開発に力を入れてもらいたい。乗降の補助等ソフト面の課題解決が重要であると考えている。【委員】
- ⇒ 通院利用者が多くいる路線の特徴も考慮し、車両側の技術開発と共にソフト面の懸念点も解決できると良い。【阪田会長】

(2) 芳賀町における実証実験の実施概要について

資料2に基づき、芳賀町における実証実験の実施概要について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ 実証実験に向けて調整をしてきたが、社内事情で車両提供ができず申し訳ない。自動運転モビリティサービスが受け入れられる環境として、地域住民の社会受容性の向上が重要と認識しており、引き続き取り組んでいきたい。【本田技研工業】
- ・ 公道での実証実験には至らなかったが、検討した3年間で得るものも多かった。自動運転の知識だけでなく、公共交通を取り巻く環境の変化や自動運転への関心などを関係者と共有できた。引き続き課題解決に向けて取り組みたい。【芳賀町】

(3) 栃木県ABCプロジェクトの実施結果について

資料3に基づき、栃木県ABCプロジェクトにおける4年間の実証実験の実施結果について説明し、質問やコメントをいただいた。

《委員からの主な意見等》

- ・ ABCプロジェクトに関する総括をしていただいた。自動運転バスの取り組み4年間について、ご意見・ご質問はあるか。【阪田会長】
- ⇒ 9ヶ所で多くの方に乗車いただけた成果を踏まえ、R7年度からの本格運行に向けてさらなる検討をお願いしたい。9ヶ所で明らかになった課題が解決できれば、レベル4の実現が可能になる。バス協会としても自動運転バスについて期待しており、協力しながら引き続きお願いしたい。【委員】
- ⇒ 事故なく実験を実施することができ、大変良い取組であったと認識している。引き続き安全安心に運行できる体制の構築をお願いしたい。【オブザーバー】
- ⇒ 自動運転については利便性の向上と安全性の確保が本質である。検証結果にあるように危険に関する認識（車両側、利用者）が課題になっていると認識している。車両側の課題と利用者が抱える不安感をすり合わせ、課題解決に向けて官民が連携した取り組みを進めてもらいたい。【オブザーバー】

⇒ 4年間に渡る取り組みについて、関係者の皆様には大変お世話になった。ABCプロジェクトが栃木県内での自動運転バスの早期実装に寄与することを心からお祈り申し上げる。

【阪田会長】

(4) その他

資料全体、ABCプロジェクト全般に関する質問、コメントをいただいた。また、事務局より本プロジェクトの総括を行った。

《委員からの主な意見等》

- ・ 難しい課題解決を扱うプロジェクトであるにも関わらず、関係者の皆様に長い期間取り組んでいただいた。社会受容性の向上が少しずつ図られた一方で、技術的な課題等は残存しており、解決に向けた引続きの取り組みが必要と認識している。栃木県が全国の先駆者になれるように取り組みを進めていきたい。【事務局】
- ⇒ 関係者の皆様にも改めて感謝申し上げたい。【阪田会長】
- ・ 次年度以降も本協議会を開催することを予定しているが、委員・会長の任期は今年度までであり、今後の対応については改めて阪田会長とも相談し、調整する。【事務局】

以上